

|                |   |      |   |
|----------------|---|------|---|
| 科目名            | 文化人類学   | 科目分類 | <input type="checkbox"/> 専門科目群 <input checked="" type="checkbox"/> 総合科目群  |
|                |   |      | 全学科 <input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択  |
|                |   |      | 学科 <input type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択  |
| 英文表記           | Cultural Anthropology   | 開講年次 | <input checked="" type="checkbox"/> 1年 <input checked="" type="checkbox"/> 2年 <input checked="" type="checkbox"/> 3年 <input checked="" type="checkbox"/> 4年 |
| ふりがな           | かまだ ゆきお   | 開講期間 | <input checked="" type="checkbox"/> 前期 <input type="checkbox"/> 後期 <input type="checkbox"/> 通年 <input type="checkbox"/> 集中                                  |
| 担当者名           | 鎌田 幸男   | 修得単位 | 2単位   |
| 授業のテーマ         | 文化人類学とはどのような学問か、何を明らかにする学問か。  |      |   |
| 到達目標           | この授業を履修することで様々な課題への対応の仕方がわかる。<br>①フィールドワークとはどのようなことか、実施の仕方や方法などがわかる<br>②具体的に課題などへの取り組み方がわかる。<br>③文化人類学とはどのような学問か説明できる。  |      |   |
| 授業概要           | 文化人類学とは、一言で説明すると世界の諸民族がもつ文化、社会それに経済、宗教など広範囲にわたる学問領域になる。この学問研究に欠かせないものにフィールドワーク（現地調査）がある。マリノフスキーのそれは広く知られているのでそこに着目する。本講義では日本の文化人類学の歩みを取り上げる。そして具体的な調査方法では、男鹿半島に伝わるナマハゲ行事や秋田の竿灯祭を事例にして考える。またダーウインの進化論や超自然の世界にも触れる。 |      |   |
| 授業計画           |   |      |   |
| 第1回            | 講義の概要についての説明  |      |   |
| 第2回            | 文化人類学の世界とは一どのような学問か。どのように研究するのか   |      |   |
| 第3回            | 文化人類学と民族学と民俗学の関連について考える   |      |   |
| 第4回            | 日本の文化人類学の歩み—研究の歴史を考える   |      |   |
| 第5回            | マリノフスキーの調査から (1) 小さな離島の経済活動について (1)   |      |   |
| 第6回            | マリノフスキーの調査は、個人や集団の経済活動から政治的、社会的関係に進展した (2)  |      |   |
| 第7回            | 世界文化遺産とユネスコの無形文化遺産について  |      |   |
| 第8回            | 男鹿半島に伝わるナマハゲ文化について (1) その概要と調査方法について (1)  |      |   |
| 第9回            | 秋田の竿燈祭の概要と調査方法について (2)  |      | (小テスト実施)  |
| 第10回           | 文化の伝播について、ダーウインの進化論 (1)   |      |   |
| 第11回           | 伝播論と社会伝播論について (2)   |      |   |
| 第12回           | 超自然の世界—アニミズム、シャーマニズムについて (1)  |      |   |
| 第13回           | 日本のシャーマニズムについて (2)  |      |   |
| 第14回           | 文化人類学の新しい領域とは   |      |   |
| 第15回           | まとめと振り返りと課題。  |      |   |
| 第16回           | 定期試験  |      |   |
| 授業時間外の学習       | 「文化人類学入門書」（中公新書）これは入門書で読みやすいので興味・関心が湧くと思う。  |      |   |
| 履修条件<br>受講のルール | テレビ番組に例えば「ダーウインが来た」「世界の諸民族の食べ物とか祭りとか生活習慣など」を取り上げることがある。関心をもって見てほしい。   |      |   |
| テキスト           | 使用しない。  |      |   |
| 参考文献・資料        | 『文化人類学入門』中公新書、祖父江孝男、2004年。『文化人類学を学ぶ人のために』世界思想社、米山俊直・谷 泰 1997。『文化人類学への招待』山口昌男 岩波新書   |      |   |

|           |   |
|-----------|---|
| 成績評価の方法   | ①定期試験 (60%)、②小テスト実施 (20%)、③レポート (10%)、④授業の簡単な感想を書く (10%)①②③④の総合評価とする。<br>出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納付金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。 |
| オフィスアワー   | 月, 火曜日 (9:00-10:30) *これ以外の場合は事前連絡があると日程調整する。  |
| 成績評価基準    | 秀 (100~90) 優 (89~80) 良 (79~70) 可 (69~60) 不可 (59~0)  |
| 学生へのメッセージ | ① 新聞やテレビ番組などで世界の民族の記録などを見る。②秋田の民俗行事に関心を持つ。  |